

おんじゆく

第364号

特 集

平成 6 年 2 月

発 行 千葉県御宿町
発行責任者 御宿町長職務代理者
御宿町助役 大谷良司
編 集 総務課

追憶

御宿町長滝口榮藏さんの

Page
北 村
昭和 30 年
10 月 10 日
No. 1000

くわんせい



ありし日の滝口 榮藏さん

滝口 榮藏さんの

功績を偲ぶ

昭和62年度

昭和62年 4月～63年 3月



滝口 榮藏 新町長 初登庁

「町政は町民のためにある」を信条とする滝口新町長の第一歩。
この日、町職員らの出迎えを受けて初登庁する。(5月15日)



初めての所信表明

「明るい活力ある町づくり」を抱負とし、
町政への取り組み姿勢を強く示した。

「マリン・フェスタ御宿」で…



メキシコ大使より
「メキシカンカップ」
が贈られた。



ねたきりのお年寄り 身障者の方々を慰問

ねたきりのお年寄りに慰問品と、
 励ましの言葉を届ける。(9月11日)



行政を公開する 「一日秘書制度」スタート

行政への理解と意見を求める「一日秘書制度」は、
 ユニークながらも優良な施策として高い評価を得た。
 (9月16日)



県知事と…

沼田知事の御宿町視察では、
 町づくりを中心とした
 要望を提出。(9月25日)

「まちづくり 町民大学」開設

住民と行政が一緒に
 町づくりを考える
 「まちづくり町民大
 学」を開設。町民と
 の積極的な意見交換
 をめざす。



「マリン・リゾートの町づくりを考える」
 が第一回目のテーマだった。(10月12日)



2回目の町民大学では、住民参加の町の
 美観向上について話し合われた。

昭和63年度

昭和63年4月～平成元年3月



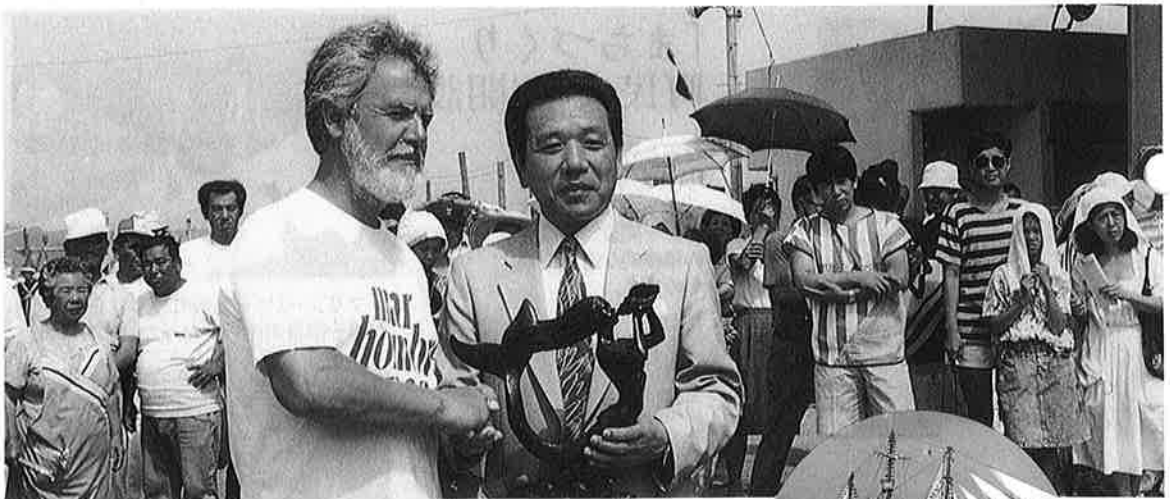
一緒に食べよう

複数校の共同調理による
学校給食の合理化を実施。
6年生と一緒に試食し、
子供たちとの交流を図る。
(4月)



海開き'88 ビバ・オンジュク!

メキシコ漁業相より友好のメダルが贈られた。(5月15日)



住民レベルの国際交流に尽力

姉妹都市アカプルコより出帆した
「マリガランテ号」の御宿寄港を実現。
世界的冒険家ビタル・アルサル船長
と握手を交わす。





メキシコ友好親善使節団 自ら団長を務める

姉妹都市アカプルコとの積極外交実現のために使節団を結成。国際的なまちづくりに尽力しました。



アカプルコ市長と握手して友好の絆を築く。(9月)



高齢者の 長寿を祈る。

町の最高齢者 渡辺ぶんさんの 数え百歳を祝い、座布団を贈る。(1月12日)



月の沙漠記念館 起工式

海の保養地にふさわしい施設「月の沙漠記念館」建設の趣旨は、町民はもとより国や県にも認められ財政面のバックアップを受けました。(1月31日)



御宿の 若い力を 激励

平成初の成人式にて祝福、御宿の未来を担う新成人とともに。(1月15日)

希望を胸に人生の第一歩を

平成元年度

平成元年 4月～平成2年 3月



みなさんの “思い”を町政に

「心のかよう町政を実現したい」
この熱意が再開させた町政懇談会。
さまざまな広聴事業を活かして
町民の心をつかむ。(4月13日)



平成元年の海開き

毎年開催される「マリン・フェスタ御宿」も
この年は平成元年とあって、より盛大。
滝口町長は修祓式で
平成の海の安全を祈願した。



若さあふれるダンスが御宿の平成元年に
花を添える。(5月3日)



親切心を ありがとう

この年、2団体と3名の方が
 善行賞を受賞されました。
 (11月3日)



ミス博覧会ちばと…

御宿町も出展する「食とみどりの博覧会」、
 そのキャンペーン隊が
 県知事からの親書をもって来町。(2月20日)



「いちばん好きな食べものは？」

卒業生を送る会に招かれて。
 楽しい食事会で六年生に向けた質問に「カレーライス！」
 の声が返る。(3月)

平成2年度

平成2年4月～平成3年3月



「月の沙漠記念館」 オープン

「ふるさと御宿の再発見と新しい文化を創造する
“海の保養地”づくりへさらに前進します」
と力強い滝口町長の宣誓で幕を開けた。





月の沙漠記念館と 東京弥生美術館が 文化協定

童謡「月の沙漠」の作詞者
加藤まさを氏の作品を
多数所蔵する両館は、
より充実した展示鑑賞を
目指し文化協定を結んだ。(5月)



“美しいふるさと 御宿” を願う

「美しい自然環境を
御宿の未来に残したい」
その願いを胸に。
清水川、錦鯉二千匹の
放流は町の将来を
担う事業のひとつ。
(6月14日)



ようこそ メキシコの 子供たち

メキシコの少年野球
世界大会代表チームが
来町。表敬訪問を
歓迎し、チームの健闘を
祈る。(7月27日)



新庁舎建設の 決意を胸に

おんじゅく広報のインタビュー
に対して「開かれた町政実現のため、
新庁舎建設は必要」と述べられた。
(10月)



「月の沙漠通り」 開通式

たくさんの人に親しまれるように、
祈りをこめてテープカット。
(5月8日)

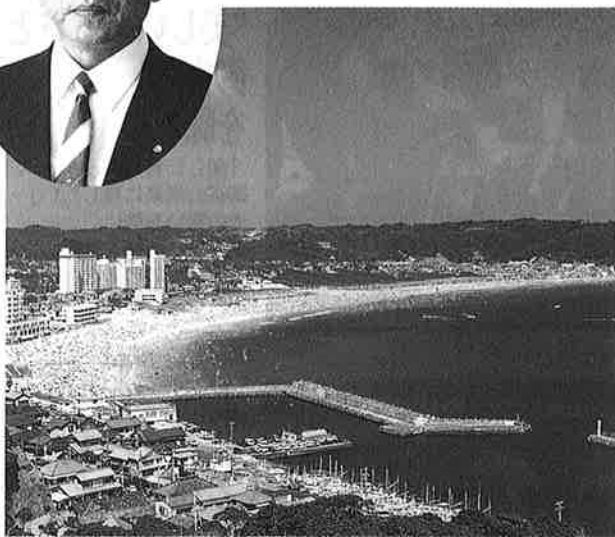


「優良施策」で 県知事表彰

この日、月の沙漠記念館は
建築コンクールに続き、
優良施策事業として二度目の
県知事賞を受けた。(3月22日)

平成3年度

平成3年4月～平成4年3月



誠意と実行をモットーに 二期目の抱負を語る

無投票当選で再選を果たす。二期目の抱負として
「文化の薫り高い活力みなぎる住みよい町づくり」を掲げた。



「月の沙漠通り」が 建設省 手作り郷土賞受賞

地域の個性、魅力を生かしたまちづくりを建設省が評価、
認定する「手作り郷土賞」に、月の沙漠通りが選出された。
(7月10日)



暴力追放！ 安心して暮らせる町に

地域のあらゆる暴力を排除して、安心して暮らせる
町づくりをめざし、「第一回暴力追放町民大会」
が開かれた。(6月4日)



大規模に展開する 津波防災訓練

防災第一。よりよいマリンリゾートを目指し、
力強い訓練講評を行なう。(8月1日)



「御宿町地域福祉センター」 オープン

ますます高齢化する社会を憂い、
ふれあいと生きがいの福祉拠点を建設。



竣工式にて、テープカット行なう。(11月)



新庁舎建設スタート

平成5年春の完成をめざし、
起工式で鍬入れを行なう。(9月13日)



児童教育で結ぶ国際交流の輪

御宿小学校がシュトゥルヴヴェルペーター博物館、
ヘルツォーク館長夫妻を歓迎。
これを契機に同館と町の歴史民俗博物館とが
姉妹提携を結んだ。(11月12日)

平成4年度

平成4年4月～平成5年3月



地域の活性化を図る 農林道整備

林道整備に対する強い要望に応え、着工に入った山の田線林道。農村地域の活性化を図る。



全町に水ゆきわたる

財政難から先送りされていた全町給水体制。滝口町政は発足後すぐにこの難題に取り掛かる。通水式のこの日、滝口町長らの送水ポンプ始動で事業は達成された。(5月18日)

全国に紹介された海開き



「月の沙漠」発表以来の70周年を記念した童謡フェスティバル。



ビーチバレーボール大会優勝者にグアム旅行など豪華賞品を贈る。

県内トップをきっての海開きは、NHKが全国へ生中継で紹介。(5月4日)



「地域開発論」を専攻する大学生は、そのモデルタウンとして御宿を選んだ。
(6月25日)



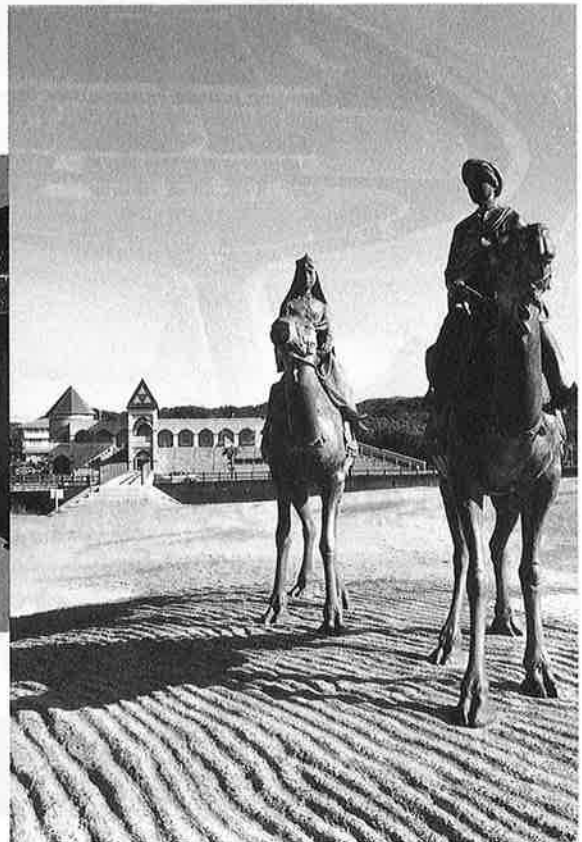
町づくり ゼミナール。

マリン・リゾート計画をはじめ、地域政策など熱心に説明。

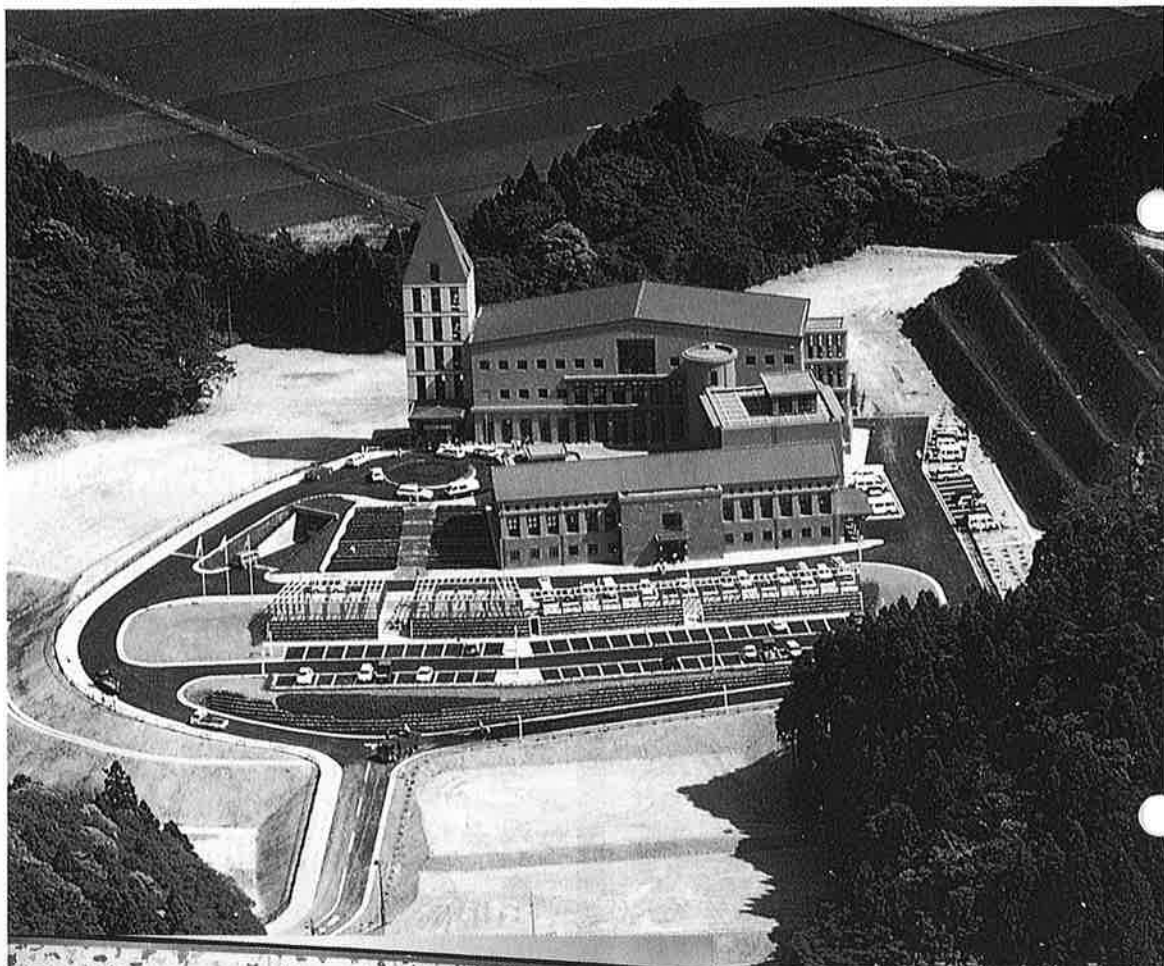


「月の沙漠記念館」 入館者10万人達成。

10万人目の入館者に記念品を手渡すとともに、ふるさと創生事業の成功を実感。



新時代の役場庁舎をめざしたデザインは町のシンボルとして機能する。



新庁舎・保健センター落成記念式典



新庁舎完成に 御宿の未来を誓う

役場新庁舎と保健センターが完成。落成式では「町民と結束し、魅力ある郷土の創造を志す」と誓った。

平成5年度

平成5年4月～平成6年3月



町民チャリティ ゴルフ大会

優勝者に町長杯のカップを手渡す。
集まった収益金は子供会に寄付。
(5月13日)



町営プールの 建設に着手

ウォーターパーク事業を企画した
滝口町長、町営プール建設の
起工式は自らの鍬入れで始まった。
(9月9日)



ふたつの県表彰 に感激

県の「美しいふるさとづくり
運動十周年記念大会」で
御宿の一団体と一名の方が
表彰され、地域ぐるみの
環境づくりに感激。

「オーレ！」華麗にはじまった御宿の季節



好天のもと、海の安全を祈願する。(5月16日)



フラメンコショー。
鮮やかな演舞が海岸を彩る。

理想を追い求めたアイデア町長。

氏は、昭和62年、推されて御宿町長に就任すると長年の行政経験と卓越した企画力と実行力を発揮し、常に町民の意志を反映した、わかりやすい行政を基調とした住民福祉の向上のための施策を次々と実現した。

特に恵まれた自然環境を保全し、基幹産業である農・漁業を振興しながら、住民が暮らしやすい都市的機能が充実したまちづくりをめざし、新しいまちづくりの方針として、「自然と産業が調和したマリン・リゾート御宿の創造」を打ち出し、住民や専門家の意見を幅広く取り入れた御宿マリン・リゾート構想を策定。地域の活性化を図るため、民間活力の導入や行政の役割などを明確にした将来計画を確立させた。

■生活環境の整備

年間100万人を越える観光客を集める御宿町は、従来から、夏季に増大するゴミの処理や河川の水質浄化対策が課題となっていた。氏は、町長就任と同時に、美しい環境づくりを推進するため、環境衛生課を新設。「ゴミのない町御宿」をキャッチフレーズとした環境機動隊による道路・公園等のクリーン作戦や河口に生活排水処理施設を建設し、海の汚染防止を図るなど、新たな施設を展開した。

また、環境美化意識を高めるため、住民と一体となった花いっぱい運動やリサイクル運動、さらには生け垣設置補助制度の導入など、住民参加の環境行政を推進した。

■上水道事業

御宿町の上水道は、昭和53年に通水を開始したが、ダムの水量や財政状況等により、農村地域は未給水区域となっており、同地域への給水は長い間の懸案となっていた。氏は、「水は生命の根源であり、公正な行政を実行する」として、農村地域への上水道事業を重点施策と位置づけ、住民の意識調査や水質状況調査等を実施。国や県に対し積極的な働きかけを行い、平成元年度からの3か年で全町給水体制を確立させ、地域住民の要望に応えると共に、農村地域の活性化を図った。

また、都市化の進展や地域開発計画の進行などによる、将来の大幅な水需要を考慮した、新規な水源確保を模索し、同じ課題を持つ、夷隅・安房地域の市町村長に働きかけ、同地域の17市町村で構成する「南房総広域水道企業団」の設立に尽力。将来の安定給水の道を開いた。

■交通網の整備

氏は、交通網の整備を住みよい地域社会を形成するための基本的な投資と位置づけ、生活関連道路の改良はもとより、新規路線の着手など、道路網整備に積極的に取り組んだ。

特に平成2年5月に完成した町道1165号線は、産業振興や交通安全対策に加え、月の沙漠記念館と調和した小公園的な機能をもたせた美しい海岸が一眺できる道路として人々に親しまれ、平成3年度建設省の「手づくり郷土賞」を受けた。

また、夏の交通渋滞緩和のため未改良道路を国

の補助を受けリゾート関連道路として改良に着手したほか、千葉市・茂原市方面に通じる県道バイパス路線を県に働きかけ計画を決定するなど、町の道路整備を大きく前進させた。

さらに、長年の懸案となっていたJR外房線の複線化工事についても、近隣市町長と連携し、県やJRに対し、早期着工を要請した結果、部分複線化計画がまとまり、平成5年7月には起工式が行われた。

■福祉

若者の都会への人口流出等により、急速に高齢化が進む御宿町では、老人福祉を中心とした福祉施策の充実が望まれており、氏は、高齢者が健康で生きがいのある毎日を過ごせるようにと、平成3年度に「地域福祉センター」を町営運動場に隣接する地に建設。ゲートボール場も計画的に整備し、高齢者だけでなく、町民だれもが気軽に利用できる施設として、多くの利用者を集めている。また、この施設を拠点として千葉県の「生きがいと健康づくり事業」を導入し、高齢者相互のふれあいや世代を超えた町民相互の交流を図る各種事業を展開した。

また、全国平均を下回る出生率の低下は、将来のまちづくりに大きな影響を与えると懸念し、人口増加対策として住宅施策と併わせ3人目以降の赤ちゃんに3年間で90万円の出生育児祝金を支給する制度を発足させた。

■観光振興

海水浴に代表される夏中心の観光からの脱皮を図り活性化を推進するため御宿マリン・リゾート構想を策定した。氏は、町独自のリゾート施設整備の第一歩として、平成2年7月童謡月の沙漠の作詩者である加藤まさを氏の遺作・遺品の保存・展示や町ゆかりの文人墨客たちの作品を展示できる新しい文化の創造拠点「月の沙漠記念館」を完成させた。この施設は、国のふるさと創生事業を千葉県で最初に具体化したもので、計画づくりの段階から町民の声を取り入れるなど、その手法は高く評価され、平成2年度の千葉県優良施策として知事表彰を受けた。

また、植栽や公園、案内誘導サイン等の既存施設の再整備にも取り組み、その案内表示板は、平成3年度日本サイン・デザイン協会主催サイン・デザインコンテストの公共部門で入選した。

さらに氏は、安全で快適な海水浴場の運営を行うため、海浜での危険行為等の禁止条項を規定した「御宿町海水浴場等に関する条例」を平成2年6月に制定。さらには、質の高い海水浴場形成のための「モデル海水浴場計画」にも着手し、町の財産である美しい海浜環境の保全に尽した。

平成3年度には、老朽化した町営プールの改修計画を立案し、国の地域づくり推進事業の採択を受け時代のニーズに合ったウォーターパーク事業に着手した。

このほか、若い力を結集してまちづくりやイベント開催をめざし若者100人を集めた「観光御宿

アクティブ100」の結成や、ふるさと産品開発等に活用すべく「月の沙漠」などの商標登録を行うなど、先駆的な施策を次々と実行した。

■農・漁業の振興

自然と産業とが調和したまちづくりをめざした氏は基幹産業である農業・漁業の振興にも力を注いだ。従来の産業建設課から農林水産課を分離独立させ、きめ細かな取り組みを図った。農業の分野では、農林道やほ場整備などの基盤整備を推進したほか、花や果樹栽培等付加価値の高い転作物の普及拡大を図った。

漁業振興においては、減少傾向にある漁獲量に歯止めをかけるべく築磯事業やアワビの稚貝放流を継続的に実施したほか、平成5年度から3か年計画で全国で初めての試みである「磯根浮泥除去試験事業」を千葉県との協力を受けて開始。磯根資源の保護・育成に尽した。

また、気象衛星を利用して24時間体制での漁業情報の提供を行う県営水産情報通信センターを岩和田地先に誘致し、漁船の操業の安全確保と効率化を高めた。

■国際交流

御宿町は、昭和53年に史実が縁でメキシコのアカプルコ市と姉妹提携を結んだ。氏は、行政だけの交流ではなく、住民レベルの国際交流を推進しようと、メキシコ・アカプルコ友好親善視察団を公募し3年計画で町の有志をメキシコに派遣。アカプルコ市への訪問やメキシコのリゾート視察を実施した。同時に、公民館事業としてスペイン語講座を開設するなど、地域に根ざした国際交流意識を高めた。

また、御宿町歴史民俗資料館内に収蔵する寺子屋当時の教科書や世界の教科書を集めた「五倫文庫」が縁で、ドイツのフランクフルト市にあるシトウルヴヴェルペーター博物館からの姉妹館提携の申し込みを受け、平成3年11月、子どもの教育を通じての交流を深める旨の姉妹館提携を行った。このほか、昭和63年9月には、日本・メキシコ修好100周年を記念して日本を訪れたメキシコの平和友好の帆船マリガランテ号の御宿寄港を実現させるなど、江戸時代初期にメキシコへ向かう途中難破したスペイン船の乗組員を救助した郷土の先人たちの勇気と行動力を受け継ぎ、まちぐるみの交流を展開した。

■教育・文化

氏は、「町づくりは人づくりから」と心身共に健康で知性・情操・体力のバランスのとれた、国際化・情報化の時代に対応できる児童、生徒の育成に積極的に取り組んだ。

教育施設の面では、平成3年度に御宿中学校にパソコン教室を近隣市町に先駆けて開設したほか、平成4年度には学区民の待望久しかった布施小学校のプール建設など、時代の要請と住民要望に即応した教育施策を推進した。

また、御宿町史の編纂作業にも力を注ぎ、編纂委員会の改革を行い、平成4年度に「御宿町史」

(通史編)を発刊した。

■広報・広聴

氏の行政への基本的姿勢である住民の意志を反映した開かれたわかりやすい町政を実践するため、広報・広聴活動の推進を図った。

各種の住民意識調査や施設見学会等に加え、20歳以上の町民を対象にした「まちづくり町民大学」を開設。毎回学者や民間企業等から講師を招き、御宿町の将来像を学び、語り合う機会を持ち、同時に行政の考え方を説明、意見交換を行った。さらに、行政になじみの薄い女性を対象に「一日秘書制度」も発足させ、町長秘書の立場から、身近に町の仕事を理解してもらうというユニークな制度も行い好評を得た。

この「まちづくり町民大学」と「一日秘書制度」は住民の行政参加や身近な行政を推進する事業であると昭和63年度の千葉県優良施策表彰を受けた。

このほか、行政情報を速く正確に伝えるため防災行政無線の戸別受信機の設置や従来の回覧板を廃止した月3回の広報お知らせ版の発行など、住民の声を活かした事業を具体化した。

■庁舎・保健センター建設

御宿町の役場庁舎は、大正13年に建設されその後手狭になったため、昭和47年に県立御宿家政高校旧校舎へ移転した。それ以来、役場庁舎の建設が懸案事項となっていたが、氏は、昭和62年に各種団体の代表や30代、40代の若い年齢層を含めた「庁舎建設委員会」を組織し、建設地等に対する民意の反映に努めた。

また、庁舎の設計にあたっては、庁舎を単なる行政のための事務所という観点にとらわれず、住民に開かれた、住民が集い、ふれあえる施設づくりをめざし、保健センターの併設化も取り入れた。

そして、基本設計を国際的な建築家であるアメリカのプリンストン大学教授マイケル・グレイブス氏に依頼。民主的な町のシンボルとしてのいつの時代にも誇れる施設づくりをめざした。こうして、マイケル氏の基本的なデザインの中に、庁舎としての機能を加味した実施設計が完成し、平成3年9月に着工した。この頃から人口8千人余りの小さな町の役場庁舎建設が、注目を集め平成5年5月28日の竣工式以後、北海道から沖縄県に至る全国各地の自治体や建築関係者が視察に訪れている。

氏は、設計の基本的理念として開かれた庁舎を重要視し、多目的に利用できる円形の議場を含む会議室を庁舎玄関のある2階に配置。さまざまな会議等での利用を可能にし、町民がここに集い、まちづくりを語り合うコミュニティセンターと位置づけた。

氏が取り組んだ多くの事業の中で最後の大事業となった役場庁舎と保健センターは将来の役場庁舎の一つのあり方として受け継がれていくことになった。

暖かな家庭にかえって。

ご家族とのスナップ集。



9月12日

滝口榮藏'満'のイ概となる。

氷造がムシヤに働いて来たが、とうとう病気になつてしまつた。思ひもよらない病気である。

肺ガンから骨に転移してしまひ、歩く事も出来なくなつてしまつた。くわしいかゞりである。

足にしびれが来ておかしくなり始めたのが、今月9月頃からで、今では両足に来て全く一人で歩けない。

それに胸と、背中に激痛が走る。

病態は静かにわていと、いふやれい治療方法があるといふと、いつたいどうなるのか。

5月28日、町の大任事であつた、役場庁舎の建設も無事に終り、見事な庁舎が出来た。

7月7日、ボールの起工式も終り、当面の任事は終つて順調に進んでゐる。

民間企業の開発計画も今より進んでゐるので、99経済状況の中大変な行かかへんは見てもらふ。

役場おと地再開奨励金はじつくりとやる。

優子がしっかりして来れてゐるから私もほくほくに安心な。

どくどくもむくむくもする、たいくもする。

昨今の社中にむくむくついでに日本中、世界中も二人で旅してゐる、ちびと考えていたが、

神様もくちか、99体を救つて下さい。

家族の手もありませう。

私には所長という大任があります。伊宿町の為には

むくむくと働くしむくむくは合はるゝし

いふ人る夢があります。

滝口栄蔵町長

逝去



平成十一年一月二十五日 かねて

治療中の滝口栄蔵町宿町長が
入院先の国保国吉病院で

逝去されました

故滝口町長は、昨年九月より
国保国吉病院で治療を受けて
おられました。医師団によ
る懸命の治療にもかかわらず、
ついに意識が回復することな
く、一月二十五日午前七時、
月の沙漠のチャイムを聴くよ
うに不帰の人となられました。
呼吸不全のため、五十九年間
の生涯を閉じられました。

御宿町長職務代理者

御宿町助役

大谷良司

1月25日
おんじゆく広報に掲載された訃報記事です。

さようなら...榮ちゃん

友人、町民から届いたお悔やみの手紙から。

榮ちゃん あまえ なせ死んで
 若井さん、海軍さん オレ 加瀬さんらの
 為にここへついでかよしかえはり 御礼を
 今まで空の上へ上げて来てくれさ、有かどう
 まごまを先をよする存、わてまゝに
 羽全でおる

お二人に及ぶか あまへの考は
 してまつ 御礼の存に
 してくれ

年1年27日

市東 榮

香

御長年梅さんか死生の報と
 開き信に水なりまねと比上
 けよりか介りせん 只冥徳を
 祈るばかりに 保水馬也せせり
 焼香に参りて 祈り後静
 養中の身は 夜命外出が出来ぬ
 御通夜 出陣に 残念な事が
 さいごに 容赦下さい

さようなら町長さん
 ありかとうにぞこましく 付こうにせ
 びとを唯々残念に思ひ 功績は若者の手
 あびたの歎きに 輝かして行く事、
 必ず後世に受け継がれて 運命は
 冬期の嫌な日 通くは 運命は
 冬期に忍ぶて 通くは 運命は
 に 天国に召されて 通くは 運命は
 恨みです 亡くは 通くは 運命は
 て 亡くは 通くは 運命は
 暑く 夏の日の 通くは 運命は
 り 町で 何れ 通くは 運命は
 あの時のあの笑顔が 私達二人に 運命は
 かけられたし 通くは 運命は
 最後の最後にもあやせ 通くは 運命は
 人々の 通くは 運命は
 祈り致します 通くは 運命は
 主と笑った 通くは 運命は
 冬空に 通くは 運命は
 有りです 通くは 運命は
 栗本 守 昭子

暗くなり 静くなり
 行きまわ どうしようもなし 時
 その時になら パーツと 開き初める物がある
 このどきには 月見草の花のようおものが
 ひそんでいる...

御長さん お疲れさまでした...
 月の砂原のメモリーを 開きながら
 御常町の川から お参り下さい
 ごめい 福をお祈り申し上げます

信田

この日、惜しまれつつ…

1月28日しめやかに密葬。



御宿町長の 滝口氏が死去

病氣療養中だった御宿町の滝口栄蔵(たきぐち・えいぞう)町長が二十五日午前七時、呼吸不全のため入院先の夷隅町の国吉病院で亡くなった。五十九歳だった。告別式は二十八日午前十時から御宿町新町二六〇の自宅で行う予定で、きょう二十六日にも議会全員協議会を開いた。

滝口氏は昭和十五年、浪花村役場(当時)に就職。三十年の町村合併で御宿町職員となり、商工観光、住民、総務各課長を歴任。御宿町を「月の沙漠」で売り出し、観光御宿の基礎を築

御宿を「月の沙漠」で売り出す

御宿町長の 滝口氏死去

夷隅郡御宿町の滝口栄蔵町長が二十五日午前七時、呼吸不全のため同郡夷隅町の病院で死去した。五十九歳。

中学卒業後、旧浪花村役場に入り、町総務課長などを経て一九八七年、保守系無所属で初当選。「マリンリゾート御宿」の整備に力を注いだ。二期目の一昨年

夏から体調をくずして入院を繰り返していた。今月十七日には、大谷良司助役が町長職務代理者になっていた。告別式は二十八日午前十時から同町新町二六〇の自宅で。喪主は妻優子(まさこ)さん。

町は、二十六日に開かれる町議会全員協議会の検討などを経て、町葬など葬儀的方式を詰める。議会は三月初めに定例会を開き、とりあえず新年度の骨格予算

夏から体調をくずして入院を繰り返していた。今月十七日には、大谷良司助役が町長職務代理者になっていた。告別式は二十八日午前十時から同町新町二六〇の自宅で。喪主は妻優子(まさこ)さん。

町は、二十六日に開かれる町議会全員協議会の検討などを経て、町葬など葬儀的方式を詰める。議会は三月初めに定例会を開き、とりあえず新年度の骨格予算

滝口 栄蔵氏(たきぐち・えいぞう)千葉御宿町長。25日午前7時、呼吸不全のため千葉夷隅町の国吉病院で死去。59歳。自宅は御宿町新町二六〇番地。告別式は28日午前10時から自宅で。喪主は妻、優子(まさこ)さん。



滝口御宿町長が死去

病氣療養中だった夷隅郡御宿町の滝口栄蔵(たきぐち・えいぞう)氏が二十五日午前七時、呼吸不全のため入院先の同郡夷隅町の国吉病院で死去した。五十九歳。自宅は御宿町新町二六〇番地。告別式は二十八日午前十時から自宅で。喪主は妻優子(まさこ)氏。町葬の日取りは未定。

滝口氏は早稲田大学高校科通信教育課程終了。昭和十一年に現在の御宿町役場に就職。住民課長、総務課長などを務めた後、六十二年に御宿町長に初当選。以来二期、滝口氏は昨年九月から入院を繰り返して十一月から入院したと手紙があった。

御宿町 滝口町長が死去



年五月、御宿町長選挙に立候補。現職の高梨秀治氏を一騎打ちの末に破り初当選した。現在は二期目。千葉コンベンションビューロー理事。

昨年の春、こちら健康を損ね、入院を繰り返しかしていた。昨年九月、十月の二回の定例町議会を欠席。一月十七日、大谷良司助役を職務代理者に任命していた。

同町長は、町の観光、産業の振興、過疎対策に取り組んだ。また、役場の新庁舎の建設を進め、昨年秋季にモダンな庁舎を完成させた。観光面では、外房随一の御宿海水浴場のPRに

御宿町長の滝口栄蔵(たきぐち・えいぞう)氏が二十五日午前七時、呼吸不全のため夷隅町対谷の国吉病院で死去した。五十九歳。御宿町出身。葬儀・告別式は二十八日午前十時から御宿町新町二六〇の自宅で。喪主は妻、優子(まさこ)さん。

滝口町長は、昭和五十八年四月、御宿町役場企画調整室長を退職。国会議員の秘書を務めた後、同六十二年

の御宿海水浴場のPRにため、五月に多彩なイベントを組んで海開きをするなど、積極的に観光開発に取り組んだ。このため、町民の評価も高く、「惜しい町長をなくした」という声が開かれた。

町議会では二十六日、議員全員協議会を開いて、町葬の日取りなどについて協議する。また、町選管は近く会議を開いて、公職選挙法の規定により、五十日以内の町長選挙の日程を決める。

滝口御宿町長が死去



夷隅郡御宿町長、滝口栄蔵(たきぐち・えいぞう)氏が二十五日午前七時、呼吸不全のため同郡夷隅町の病院で死去した。五十九歳だった。

人の県コンベンションビューロー理事に就任している。町長二期目に入ってから体調を崩し、入院院を繰り返して、入退院を繰り返していた。

滝口町長の死亡に伴い、大谷良司助役が町長の職務代理者になった。町長選は公職選挙法の規定により、町選管へ五日以内に通知され、五十日以内に投票される。

葬儀・告別式は二十八日午前十時、御宿町新町二六〇の自宅で。喪主は妻優子(まさこ)さん。町葬の日取りは未定。

は県内町村長では、ただ一

ご会葬御礼申し上げます。

本日はご多忙の中にもかかわらず、このような大勢の皆様のご参列を賜わりまして、誠にありがとうございます。また、ご丁重なる、ご焼香、ご香典を賜わり、重ねて厚く御礼申し上げます。

父は、本来ですと、この9月には5回目の年男としての誕生日を迎えるはずでございました。昭和62年、町長に就任して以来、今ほど父の安らいだ、穏やかな顔を見たことはありません。それは、激務と闘病との毎日でありました。父は、自分の病気のなんたるかを6年も前から承知しておりました。父は、自分に残された時間のあまりにも短いことも知っておりました。その短い時間の中でやらなければならないことが、山ほどありました。そんな父の姿を、「やりすぎだ、もっとゆっくりやればいいのに」、との声や、悪質なデマ宣伝もありました。父には、そのようなものにいちいち弁解をして歩く時間はありませんでした。一切を無視して、くやしさをこらえただ黙々と働きました。深夜、自分の部屋で書き物をしながら、脇腹をおさえて痛さをこらえている父の後姿を何度見たことでしょうか。自分の命を削りながら作った新庁舎の町長室に、何日もかよえぬまま、ついに運命の1月25日を迎えてしまいました。

うすれゆく意識の中で、なおかつ生きようとして、必死に酸素を吸いこんでいた父の顔を、私は一生忘れる事は出来ません。朝6時半頃から急に血圧が下がりはじめ、まっ赤な太陽が昇りはじめた午前7時、みんなの奇跡を願う気持ちもむなしく、その口は、二度と動かなくなってしまいました。丁度、御宿では「月の沙漠」のメロディーが鳴り始めたところでした。父はきっとこの時間を待っていたのだと思います。

私は、きのう父の日記を見つけました。父は、何十年もの間一日もかかさずに日記をつけておりました。最後にその一部をご紹介しますお礼の言葉といたします。これは入院する二～三日前と入院の前日に書いたものです。

9月13日

滝口榮藏 満59才となる。

これまでガムシャラに働いてきたが、とうとう病気になってしまった。思いもよらない病気である。

肺ガンから骨に移転してしまい、歩くこともできなくなってしまった。くやしさがざりである。

足にしびれがきて、おかしくなりはじめたのが今月の1日頃からで、今では両足にきて全く一人では歩けない

それと胸と、背中に激痛が走る。病院では、静かに寝ていろと言うけれど、治療方法がないとするといったいどうなるのか。

9月16日

優子がしっかりしてくれているから安心だ。

どんなことにもびくともしない、たいしたもんだ。

町長の仕事にひとくぎりついたら、日本中、いや世界中を二人で旅したいなあー。

などと考えていたが。神様なんとかこの体をなおしてください。

家族のこともありますが、私には町長という大役があります。

御宿町をもっともっとよくしなければならぬし、いろんな夢がたくさんあるのに。

遺族代表 滝口 一浩

ごあいさつ

御宿町長 故滝口榮藏儀、昨年九月より国保国吉病院で治療を受けておりましたが、平成六年一月二十四日容態が急変し、医師団の懸命の治療にもかかわらず、ついに意識を回復することなく、一月二十五日朝七時、呼吸不全のために永眠されました。御宿の月の沙漠のチャイムを聴くかのように五十九年の人生を閉じられました。ここに生前の御厚誼に対し心より深く感謝の意を申し上げます。次第でございます。

故滝口榮藏氏は、昭和六十二年に多数の町民の熱烈な支持により町長に就任されました。長年の行政経験、卓越した企画力、緻密に計算された計画と果敢な実行力は、常に、町民の意志を反映する解りやすい行政を実践し、住民福祉向上のための施策を次々と実現しました。

また、御宿の恵まれた自然環境を保全しながら、基幹産業である農業・漁業を振興し、住民が暮らしやすい都市的機能が充実した町づくりを目指すとともに、全国に先駆け、町独自のマリン・リゾート構想「自然と産業が調和した“マリン・リゾート御宿”の創造」を新しい町づくりの方針として打ち出しました。さらに、地域の活性化を図るため、民間活力の導入や行政の役割などを明確にした御宿の将来計画を確立、房総の中核的リゾートとしての位置づけを意図し、着々と基盤整備を推進されました。

「人生を二倍に生きる」そのモットーを実践され命尽きた故滝口町長の「家族のこともあります、私には町長という大役があります。御宿町をもっともっとよくしなければならぬ。」という言葉が御自身の最後の日記でありました。

本日の故滝口榮藏町長、御宿町葬儀に際しまして公私ともご多忙のところ御参列頂きました各位へ謹んでお礼を申し上げます。

平成 6 年 2 月 28 日

御宿町長職務代理者 御宿町助役

葬儀委員長 大谷 良司

喪 主 滝口 優子

故 滝口榮藏さんの略歴

本 籍 所 千葉県夷隅郡御宿町新町260番地
現 住 所

学 歴 昭和29年3月31日 早稲田大学高校科通信教育課程修了

公 選 職 歴 自 昭和62年5月15日
至 平成3年5月14日 御 宿 町 長

自 平成3年5月15日
至 平成6年1月25日 同 上

自 昭和62年5月15日
至 平成3年5月14日 布施学校組合管理者

自 平成3年5月15日
至 平成6年1月25日 同 上

自 昭和62年5月15日
至 平成3年5月14日 夷隅郡市広城市町村圏事務組合副管理者

自 平成3年5月15日
至 平成6年1月25日 同 上

自 昭和62年5月15日
至 平成3年5月14日 夷隅郡環境衛生組合副管理者

自 平成3年5月15日
至 平成6年1月25日 同 上

自 昭和62年5月15日
至 平成3年5月14日 国保国吉病院組合副管理者

自 平成3年5月15日
至 平成6年1月25日 同 上

公 務 員 歴 昭和25年4月1日 夷隅郡浪花村吏員を命ずる 浪 花 村 長
月俸3,000円を給する

昭和26年6月1日 夷隅郡浪花村書記を命ずる 同

昭和30年3月31日 合併により御宿町書記を命ずる 御 宿 町 長

昭和43年4月1日 商工観光課長を命ずる
昭和46年6月1日 住民課長を命ずる
昭和47年4月1日 総務課長を命ずる

団 体 歴 自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 夷隅地区職業指導協議会監事

自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 長生夷隅管内官公署登記事務連絡協議会理事

自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 千葉県道路協会大原支部評議員

自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 千葉県町村会政務調査会都市土木委員会委員

自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 日本赤十字社千葉県支部御宿町分区分区長

自 昭和62年5月15日
至 平成6年1月25日 千葉県共同募金会御宿町分会分会長

自 平成元年2月20日 御宿・岬・大原海浜リゾート
至 平成6年1月25日 推進連絡協議会副会長

自 平成元年6月1日
至 平成6年1月25日 財団法人千葉コンベンションビューロー理事

自 平成4年7月14日
至 平成6年1月25日 全国町村下水道推進協議会千葉県支部監事

そ の 他 自 昭和59年3月1日
至 昭和61年3月31日 参議院議員 山崎竜男秘書

平成6年1月25日 死亡（呼吸不全）

賞 罰 昭和51年1月30日 全国町村会会長表彰（地方自治功勞）